

対象	小学校高学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学6年 「天皇中心の国づくり」 中学校・歴史 「貴族社会の 発展」
教科書	東京書籍・教育出版等
掲載日	2019.6.13. 朝刊 三重版

市が復元イラスト

発掘調査20年余の『集大成』

鈴鹿・伊勢国分寺跡

鈴鹿市が二十余年かけて発掘した国分寺跡「伊勢国分寺跡」（同市国分町）で、市は復元イラストを初めて作った。長期間にわたる調査で明らかになった建物の配置や構造などを忠実に再現した『集大成』。来春、歴史公園としてオープンする史跡に、このイラストも掲げる。

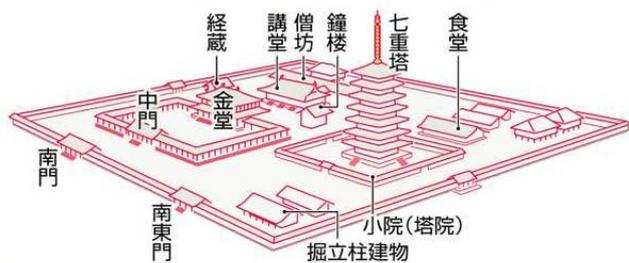
（酒井直樹）

奈良時代、県内の鳥羽志摩、東紀州、伊賀地方を除く「伊勢の国」に造られた官営のお寺。市が一九八八～二〇〇八年に発掘などの調査をした。

一辺が約百八十メートルの築地塀に囲まれた大寺院。長年、畑や田んぼとして耕作されてきたため、柱などを支える礎石や建物が載る基壇などの痕跡は、ほとんど

なくなっていた。調査に携わった市文化財課の新田剛さん（宝）は「住宅や倉庫などに」開発されていなかったが、遺構も残っていなかった」という。三十五次にわたる発掘調査の結果、建物下の地盤改良の跡など、わずかな手掛かりを積み重ねた。本尊を安置した金堂、僧侶が食事をした食堂などの伽藍配置を解き明かし、すでに平面

図は作成済み。「当時の文献資料はない」（前田有紀学芸員）とし、配置が似ている陸奥の国の国分寺も参考にしたという。昨年十月、こうした考古学関係の絵を手掛ける京都府のイラストレーターに依頼。建物ごとの柱の数、ベタを塗った赤い外観など、これまでの調査成果を反映させた。国分寺につきものの「七重の塔」の存在は発掘から明らかになっていないが、イラストには入られてもなかった。国分寺跡の隣接地には市考古博物館があり、今後、催して活用したり、他の市町にも貸し出ししたりする。



市考古博物館の展望デッキから見た伊勢国分寺跡。左上が金堂や講堂、右下が掘立柱建物＝鈴鹿市国分町で



伊勢国分寺 奈良時代の741(天平13)年、聖武天皇の詔(みことのり)によって全国70近くの国ごとに造られた国分寺の一つ。今の四日市市境付近の鈴鹿川左岸の河岸段丘上にあった。市が芝生を張るなどして歴史公園として整備中。約7キロ離れた鈴鹿市広瀬町では、伊勢国府跡が見つかった。

問1：国ごとに国分寺を建てることを命じたのはだれですか。

() 天皇

問2：礎石や基壇などの痕跡がほとんどないのに、どうやって復元イラストを作ったのでしょうか。

建物下の () の跡など、わずかな手掛かりを積み重ねた。

問3：存在が明らかになっていませんが、復元イラストに入れられた建物は何でしょうか。()

発展：自分の住んでいる県に国分寺があったかどうか調べてみましょう。

【活用にあたって】

「伊勢国分寺跡」は、鈴鹿市^{こくぶ}国分町にあります。現在でも「国分」の地名が残っています。東京には「国分寺」という市があるなど、各地に「国分」の地名がいくつも残っています。

1200年以上前の古代の歴史であっても、現代とつながっていることを実感できます。

歴史は教科書の中だけのものではありません。新聞記事の内容を通して歴史を現代に通じるもの、身近なものとしてとらえられるとよいでしょう。

解答例

問1：^{しょうむ}聖武

問2：地盤改良

問3：七重の塔（七重塔）

発展：国分寺は全国に60か所以上に建てられました。愛知県には尾張と三河に、岐阜県には伊賀・伊勢・志摩に、三重県には美濃と飛騨にありました。静岡県・滋賀県・福井県・長野県・石川県にもありました。どこに建てられていたのか、地図で確認できるとよいと思います。